

確率変容ペルソナ分析のご案内

— 数字で「有望対象」が分かる、実務向けペルソナ分析 —

If Y 発想から、目標達成の手がかり、
足がかりと有望層を同時に、最短で可視化する

If y, which $p(x)$ changes meaningfully & significantly?

次のうち、あてはまる項目はありますか？

- ☐ 目標達成の手がかりを、最短で探索できたらいいと思う
- ☐ ペルソナ分析って、どうしても“それっぽい物語”になりがちだと思う
- ☐ 数字だけで有望対象のプロフィールが分かるとしたら、実務で使える
- ☐ 回答者の有望度を偏差値で示し、ランキングできるとしたら、実務で使える
- ☐ 目標未達成層に潜む、見込度の高いポテンシャル有望層を可視化できたら、実務で使える
- ☐ 物語としてのペルソナではなく、成果につながるKPI 設計など、目標達成設計図としてのペルソナに興味がある

☒ **が1つでもあれば、お役に立てるアンケート分析のご案内です。**

※ 本企画は、上記の悩みを

if Y(目標達成)という、大胆な前提転換から整理し直します。

AIのようなブラックボックスではなく、一つひとつの判断根拠を数字で確認できる分析のご案内です。 1

本企画の 全体像

-
- ① if Y（目標達成への前提転換）から始める
分析の狙い：超効率的な手がかり探索
-
- ② 差分検定による意味ある変化の抽出
-
- ③ ペルソナリスト、ペルソナ適合度、
ペルソナ偏差値
-
- ④ 顕在有望層／ポテンシャル有望層
／非有望層、回答者の有望度3層構造
-

アンケート 分析でよく ある課題

次のようなお悩みはありませんか？

課題：原因探しから始まり、
論点が拡散しやすい

どの対象に注目すべきか、
よく分からない

分析結果が次の打ち手
につながりにくい

⇒ その結果、施策立案で最も大切な“注目すべき
対象は誰か”を見逃してしまうことがあります。 3

先ほどの悩み、見方を転換するだけで解決します！

発想の
転換：
結果起点の
集計分析

- 先ず、目標Yが達成された世界に立って考える
- その世界では、どの要素Xがどれだけ増えて(減って)いたかを省みるだけ
- 発想の向きを反転(果⇒因)させることで、手がかり探索の効率を飛躍的に高められる

具体的には、前提を転換するだけで解決します！

$$p(y|x) / p(y) = p(x|y) / p(x) \quad \times$$

理論的背景：
確率変容
恒等式

行動起点でも結果起点
でも、確率の変わり方
は同じ

結果起点探索の理論的
正当性を保証

※クロス集計表における任意2つの対称カテゴリーをx、yとした場合、恒に成り立つ関係式です。成果(y)が出た世界では、“何(x)がどれだけ変わっていたか”を省みるだけで、次の一手が分かります。

差分検定 による 有意な 変容項目 の抽出※

$\Delta p = p(x|Y) - p(x)$: 差分
(インパクト)の大きさを算出

差分の大きさと再現の信頼
性(確かさ)を同時に評価

意味のある変容項目だけを
抽出

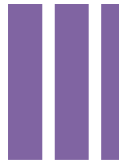
※ 因果を断定するものではありません。

確率変容ペルソナリストの作成

達成世界で有意に
増減した特徴の
リスト

GT%を基準とした
厳密な特徴定義

物語ではなく、
達成世界における
「構成条件リスト」
として活用



ペルソナ適合度の算出

- 回答者がどれだけ達成世界に近いかを数値化

- $W_x = \Delta p_x \times Z_x$ による重み付け

(注) $\Delta p_x = P(X | Y) - P(X)$ 、確率変容度(単位はpt)

Z_x = 結果再現の信頼性(確かさ)を表す統計量Z値

W_x は、「効き目(差分) \times 確かさ(Z)」をひとつにした重みです。

達成世界へ前提転換した場合、“大きく、そして確かに変わった”項目を自動的に上位へ押し上げる仕掛けです。

- プラス特徴は加点、マイナス特徴は減点



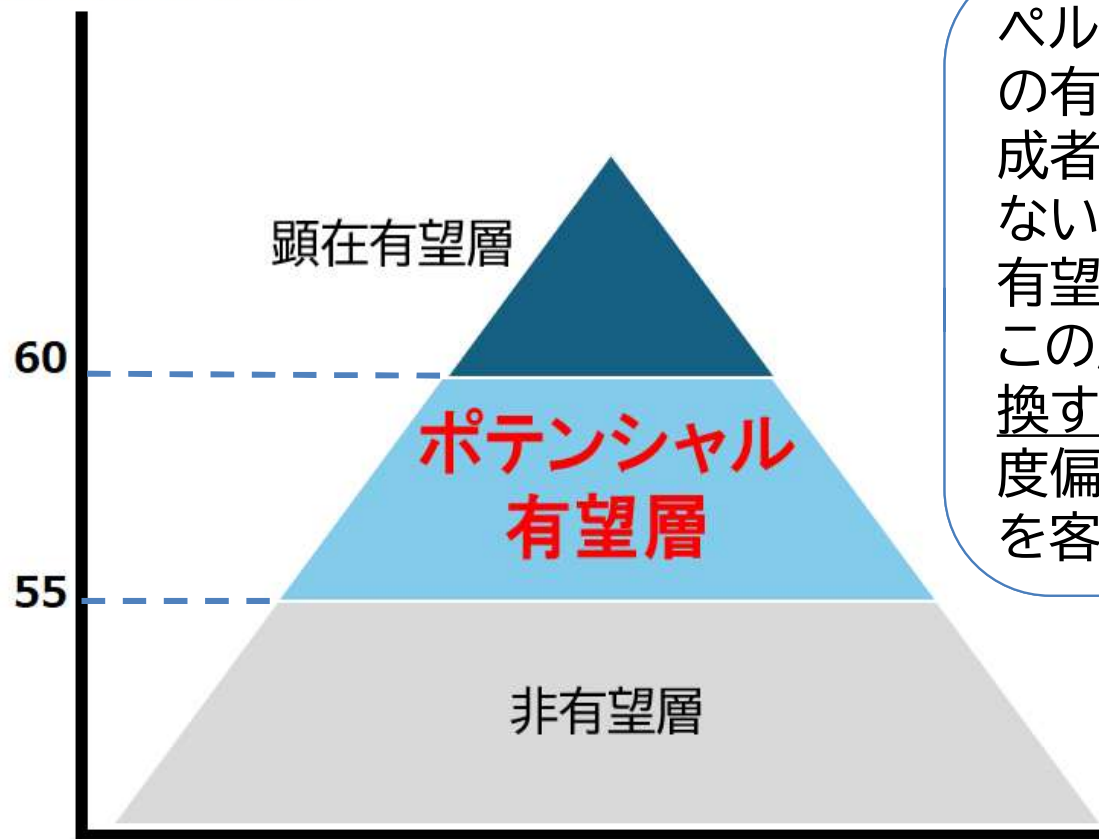
ペルソナ偏差値

- 回答者の達成世界における適合度を偏差値化し、比較尺度として利用
- 母集団内での相対的位置づけを可視化
- 予測ではなく、「構造的な近さ」の指標

回答者の有望度3層構造

- ・ 顕在有望層：既に目標を達成している層
- ・ ポテンシャル有望層：未達だが適合度が高い層
- ・ 非有望層：適合度が低い層

ペルソナ適合度偏差値



ペルソナ適合度偏差値を用いれば、回答者の有望度を客観的に識別できます。目標達成者の中にも、実際は適合度があまり高くない方もいますし、目標未達者の中にも、有望度が高い人は多くいます。さらに、この層は少しの後押しで、顕在有望層に転換する可能性が大です。実はペルソナ適合度偏差値は、こうした“質量共に有望な層”を客観的に識別し、可視化する指標です。



この分析で得られる価値

- 成果につながる特徴を最短で把握
- 顕在／ポテンシャル有望層の識別
- 「誰に※×何を」を感覚ではなく、数字で決められる
 - ※ ここでいう「誰に」とは漠然とした属性ではなく、達成世界との距離で定義された2つの有望層。顕在有望層とポテンシャル有望層のことです。
- 成果に繋がるKPI設計など、目標達成設計図を得られる



主なアウトプット

- ① ハイブリッド・クロス表
- ② 確率変容ペルソナリスト
- ③ ペルソナ適合度・偏差値一覧
- ④ 対象形成プロセスチャート

アウトプットイメージ: ①ハイブリッド・クロス表

【ハイブリッド・クロス表】：2種類の特徴（ボリューム、確率変容の確かさ）がひと目で分かるクロス表

データバー：各項目のG Tボリューム

全体及び各表側のトップカテゴリーを**赤太字**で表記

母比率の差両側検定結果の凡例（表頭項目の前提として表側項目を組み込んだ場合、意味の有る確率変容・インパクトをもたらすペア項目＝特徴がある、必然な関係）

**	1%水準（99%の信頼性）で有意に高い	*	5%水準（95%の信頼性）で有意に高い
//	1%水準（99%の信頼性）で有意に低い	/	5%水準（95%の信頼性）で有意に低い

		Q1.年齢									
		合計	20歳未満	20歳～29歳	30歳～39歳	40歳～49歳	50歳～59歳	60歳～69歳	70歳以上	無回答	平均
全体		1000	0.0	8.2	13.2	12.6	16.9	22.1	25.8	1.2	55.65
目標対象	高頻度利用層	368	0.0	7.1	/ 10.1	11.7	* 20.4	** 26.6	23.6	0.5	56.72
	それ以外	632	0.0	8.9	* 15.0	13.1	/ 14.9	// 19.5	27.1	1.6	55.02

		合計	Q2.職業											
			自営業	専門的 職業(医 師・弁 護士な ど)	公務員	会社役 員・団 体役員	会社 員・団 体職員	派遣・ 契約・ 嘱託な ど	パート・ アルバイ ト・内 職	学生	主に家 事・育 児をし ている	無職	その他	無回答
全体		1000	14.1	1.7	5.6	3.1	18.7	3.2	13.7	1.0	8.5	24.1	4.3	2.0
目標対象	高頻度利用層	368	** 19.8	1.9	6.8	4.3	** 25.0	3.5	// 6.5	1.6	// 0.3	25.5	3.8	/ 0.8
	それ以外	632	// 10.8	1.6	4.9	2.4	// 15.0	3.0	** 17.9	0.6	** 13.3	23.3	4.6	* 2.7

※目標対象を表側に設定したクロス表です。そのため、縦方向（横方向ではなく）の比較で特徴要因を識別します。当スタイルの全問クロスを行うことで、効率的に一括抽出できます。

アウトプットイメージ：②確率変容ペルソナリスト

【マーカー凡例】

	目標対象（高頻度利用層）
	1%水準（99%の信頼性）で有意に高い
	5%水準（95%の信頼性）で有意に高い
	1%水準（99%の信頼性）で有意に低い
	5%水準（95%の信頼性）で有意に低い

項目No.	1	2	3	4
項目名	目標対象	Q1. 年齢	Q2. 職業	Q3. 環境問題への取り組みについて、重要だと思うこと
項目属性	SA	SA	SA	MA
カテゴリー名				
1	高頻度利用層	20歳未満	自営業	森林や緑地、水源地などの保全
2	それ以外	20歳～29歳	専門的職業(医師・弁護士など)	河川や池、水路などの水質の保全
3		30歳～39歳	公務員	動植物など、自然生態系の保全
4		40歳～49歳	会社役員・団体役員	太陽や水など再生可能エネルギーの活用
5		50歳～59歳	会社員・団体職員	節電など省エネルギーの推進
6		60歳～69歳	派遣・契約・嘱託など	再生可能エネルギーと自然環境との調和
7		70歳以上	パート・アルバイト・内職	過剰包装の自粛や生ごみ処理機など、ごみの減量化
8			学生	ビン、缶、ペットボトル、古紙など、資源の回収と再利用
9			主に家事・育児をしている	農業や化学肥料などの利用自粛、有機型農業(環境保全型農業)の推進
10			無職	地域の環境美化や清掃活動への参加推進
11			その他	不法投棄の監視体制の強化
12				環境保全意識の啓発や、環境教育の推進
13				その他
14				

※全てのクロス集計結果について、マーカーで特徴要因を識別した一覧リストをご提供致します。
目標対象の厳密な特徴一覧なので、有意な“確率変容ペルソナリスト”と言えるでしょう。

アウトプットイメージ: ③ペルソナ適合度・偏差値一覧

重み Wx⇒ 0.00 0.00 -2.30 0.00 2.45 3.30 0.00 3.58 0.00 0.00 0.00 4.80 0.00 0.00 -3.50 0.00 -4.20 0.00 0.00																					
対象区分		確率変容ペルソナ候補リスト																		ペルソナ 適合度	ペルソナ 偏差値
達成層 = 1 未達成層 = 2	Q1. 20歳 未満	Q1. 20歳 ～29 歳	Q1. 30歳 ～39 歳	Q1. 40歳 ～49 歳	Q1. 50歳 ～59 歳	Q1. 60歳 ～69 歳	Q1. 70歳 以上	Q2. 自営 業	Q2. 専門 的職 業	Q2. 公務 員	Q2. 会社 役員・ 団体 役員	Q2. 会社 員・団 体職 員	Q2. 派遣・ 契約・ 嘱託な ど	Q2. パート アルバ イト・ 内職	Q2. 学生	Q2. 主に家 事をして いる	Q2.] 無職	Q2. その他			
2	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
2	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	4.80	0.00	0.00	-3.50	0.00	0.00	0.00	0.00	1.30	52.27	
2	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	4.80	0.00	0.00	-3.50	0.00	-4.20	0.00	0.00	-2.90	42.14	
2	0.00	0.00	-2.30	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	4.80	0.00	0.00	-3.50	0.00	0.00	0.00	0.00	-1.00	46.72	
1	0.00	0.00	-2.30	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	-2.30	43.59	
1	0.00	0.00	-2.30	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	-2.30	43.59	
1	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	49.14	
2	0.00	0.00	-2.30	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	4.80	0.00	0.00	-3.50	0.00	-4.20	0.00	0.00	-5.20	36.59	
2	0.00	0.00	0.00	0.00	2.45	0.00	0.00	3.58	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	6.03	63.69	
1	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	3.58	0.00	0.00	4.80	0.00	0.00	-3.50	0.00	-4.20	0.00	0.00	0.68	50.78	
2	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	3.58	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	3.58	57.78	
2	0.00	0.00	-2.30	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	4.80	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	2.50	55.17	
2	0.00	0.00	0.00	0.00	2.45	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	4.80	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	7.25	66.63	
2	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	49.14	
2	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	-3.50	0.00	0.00	0.00	0.00	-3.50	40.69	
1	0.00	0.00	-2.30	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	4.80	0.00	0.00	-3.50	0.00	0.00	0.00	0.00	-1.00	46.72	
2	0.00	0.00	-2.30	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	-2.30	43.59	
2	0.00	0.00	-2.30	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	4.80	0.00	0.00	-3.50	0.00	0.00	0.00	0.00	-1.00	46.72	

～

※ペルソナ適合度・偏差値一覧を用いれば、回答者の有望度3層構造認識が可能になります。

アウトプットイメージ：④対象形成プロセスチャート

【概要】

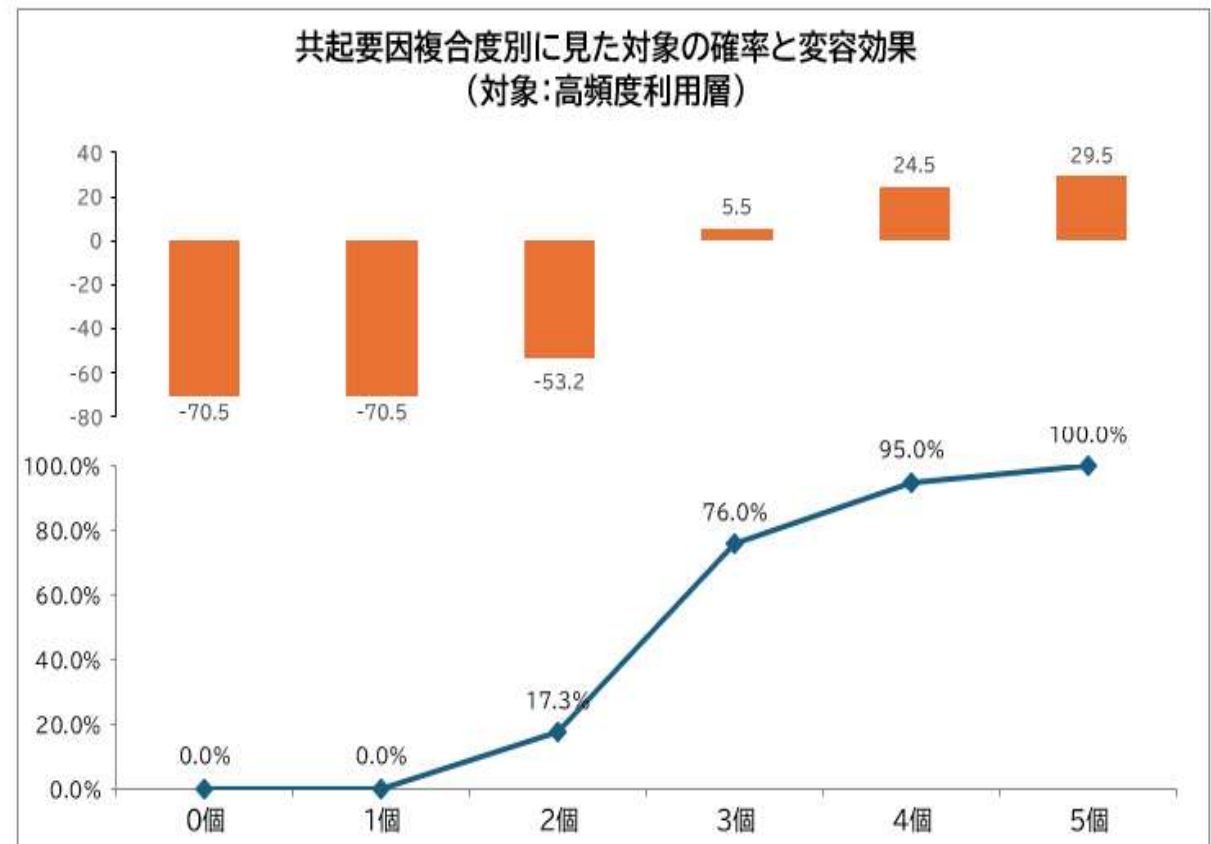
当シートは、共起要因ベスト5にあてはまる項目数(共起要因複合度)と対象の確率の関係(対象形成プロセス)を図示したものです。共起要因複合度が高まるほど、対象の確率も高まる傾向が見られます。当チャートの価値は、目的軸に即した現ポジション(共起要因ベスト5にいくつあてはまるか)を簡単に確認できるのと、その評価・追跡が可能なこと。目標達成率の動向も概ね推測できること。総括すると、ビジネスの現場で目標達成へ向けた「KPIチャート」として活用できることです。様々な視座(回答者自身、回答者が所属する部署、組織全体)であっても、同一のチャートで、“次の一手”を判断できるのが最大のメリットです。

対象： 高頻度利用層

共起要因複合度	対象の確率	変容効果 (p t)	該当数	サンプル数
0個	0.0%	-70.5	0	53
1個	0.0%	-70.5	0	119
2個	17.3%	-53.2	17	98
3個	76.0%	5.5	98	129
4個	95.0%	24.5	209	220
5個	100.0%	29.5	381	381
平均確率 (GT%)	70.5%		705	1000

注1：上段の縦棒グラフは、共起要因複合度別に見た効果 (p t) を示しています。

注2：下段の折れ線グラフは、共起要因複合度別に見た対象の確率 (%) を示しています。



【お問い合わせについて】

最後までご覧頂き、ありがとうございました。

当サービスに関するご質問やお見積り作成等は下記までお願いします。お客様がご手持ちのアンケートデータから、有力な手がかりを抽出できそうか否かの、無料相談を承ります。

〒 331-0812

埼玉県さいたま市北区宮原町2-92-1-508

株式会社データム 担当: 舘野

電話: 090-9647-2040 電子メール: info@dtum.co.jp